



福祉と住環境を考える ふくてつく

2003年5月
第52号

特定非営利活動法人
ふくてつく

559-0034大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC ITM棟 11F 1イグ以上L
TEL/FAX 06-6614-6800 ホームページ http://www.osakacity-vnet.or.jp/link/hukuteku/

3月定例学習会
平成15年3月1日(土)
森田 真千子氏
世界身体障害芸術家協会
会員

私は1才の時に脳性小児麻痺になり四肢が不自由に なりました。初めに、「障害の定義」に触れます。WHOの国際障害分類試案によれば、①機能的障害 (Impairment) ②能力的障害 (Disability) ③社会的不利 (Handicap) となっています。

①は一次障害とも言われ、身体や精神など一部の機能が失われている状態で、疾病や事故原因により目が不自由になるなどがその一例です。②は二次障害といわれ、機能障害によつて、その機能に関する事が



脳性麻痺について

できなくなる状態。先の例では目が不自由なために読み書きが困難となる等が該当します。③は三次障害といい、まわりの条件が整っていないために生活しにくくなる状態、すなわち、偏見や先入観などで障害が正しく理解されず、その結果「普」の生活や就労が困難な状態です。①や②はその人に関わる事ですが、③はまわりの環境に関わる事で、その克服に皆さんのボランティア活動が必要とされているわけです。

さて、脳性麻痺は胎児の幼年期における中枢神経系の損傷によって様々な運動障害を伴う症状を示すものですが、そうなる原因には幅広い可能性があります。

1. 出生前に母体の喫煙等による中毒や栄養障害、胎内感染などによって影響を受けるケース。
2. 出生時の酸欠や出血等による脳の障害。
3. 出生後1年までの幼児が安定していない頃の脳炎や高熱による影響。

以上3ケースがありま

す。脳性麻痺は様々な症状を示します。麻痺の部による分類では、四肢麻痺、片麻痺、両麻痺、対麻痺があります。また神経症状による分類では、痙直型(伸張反射が異常に高まった状態。筋の伸張により反射的に強く収縮して身体の力が抜けない)、アテトーゼ型(不随意運動)、失調型(筋の力が弱くバランスをとりにくい)、固縮型があります。

また麻痺の程度も軽症・中等症・重症と幅広く、一人ひとりが異なるのです。一見しんどそうでも本人は案外楽であったり、その逆もありますから、サポートして下さる方は本人とよくコミュニケーションをとって、十分理解したうえで工夫する事が大切です。

脳性麻痺の主な原因となる脳(神経系)の病変そのものは非進行性ですが、それに伴う運動障害は加齢とともに永続的に進行するものです(随伴障害あるいは二次障害)。よく見られる随伴障害として、知能の低下、てんかんや痙攣、視覚や聴覚など感覚機能の障害、情緒や言語の障害、呼吸や摂食の障害をあげること

小さちゃん

菽野光



「浴室用リフト」介護保健制度の対象となる

とができます。またこれら機能の成熟は後の生活経験に負う所も大きく、経験機会を失いがちな脳性麻痺児にとっては、運動障害に発する二次的な障害という側が大きいのです。

一方は、脳性麻痺と知的障害の区が難しいようです。またよく陥る誤解として、脳性麻痺とポリオの混同があります。ポリオはウィルス性の感染症で、わが国でも昭和20年頃に流行し、その後ワクチンによって鎮静しましたが、近年再び復活の兆しがあるといわれています。

私の場合も、3年生まれですが、当時ポリオ感染者とよくまちがえられ、うつるんではないかと言われた経験があります。当時は他にもサリドマイドやイタイイタイ病など、いわゆる公害病が多発した時代です。その後、障害者運動が活発になり、ようやく障害者が理解されるようになりました。今でこそ人権に関わるとされるような事が当時は

《次ページへ続く》

超難関 福祉住環境コー ディネーター検 定試験1級 合格発表

平成14年11月23日に第1回の福祉住環境コーディネーター1級の試験がありました。

受験資格は福祉C2級合格者であり、全国で11456人が受験しました。1級は一次試験と二次試験があり、一次試験合格者は1487人(合格率13%)でした。二次試験は平成15年2月2日に行われ、合格者47人(合格率3.1%)。一次試験からの全受験者の合格率では、0.4%という今までに例を見ない難関な検定試験でした。

我がふくてつくでは、一次試験合格者は6名でしたが、二次試験合格者は1名、山本尚子さんが見事合格されました。おめでとうございます。

次回の福祉住環境コーディネーター検定試験2・3級は6月29日、1級は8月31日に開催されます。(研修部 清水 麗子)

* 6・7・8月研修講座 テーマ「地域福祉」*

福祉サービスが『措置』から『利用者』へと転換する中、利用者本の福祉システムを確立する上で、地域福祉のあり方が問われています。地域福祉は、よりよく生きたいと考えている人がつくりあげるものであり、地域に定住する人々に限定するのではなく、地域と関わりを持つ全ての人や団体の取組みが必要だといわれています。

6・7・8月の研修講座は地域福祉に関係するテーマで開きます。会員以外への案内は5月中旬より始めます。ふくてつく会員の方はお早めにお申し込みください。

日時：土曜日 AM10:30~PM5:00 但し、ふくてつく会員はAM10:15集合
コースと内容：

- 【6-A】6月28日『コミュニティと地域支援』「福祉コミュニティの概念および現状と課題」「福祉コミュニティづくりの方策と事例」「地域組織活動とプライバシーの保護」等
- 【7-A】7月12日『福祉のまちづくり条例と法制度』ソフト(政策)とハード(物理的)のかかりについて、「福祉のまちづくり条例とは」「ハートビル法、交バリアフリー法、高齢者居住法等」
- 【7-B】7月26日『福祉のまちづくり』福祉のまちづくりの「概念」「視点」「制度」「協働・参画のシステムづくり」等
- 【8-A】8月2日『高齢者・障害者ケア』移り変わる福祉制度、「成年後見制度」「支援費制度」「平成15年4月に改正された介護保険制度」について

会場：ATC・ITM棟9階セミナールーム

定員：各コース 60名(先着順)

受講料：各コース ふくてつく会員 ¥1,000 会員外 ¥3,000

申込み方法：A) 申し込み用紙に必要事項を記入し、受講料を添えてふくてつく会計(和泉)まで。

B) 郵便局より受講料をお振込みください。

郵便局備え付の用紙使用 *口座番号 00970-5-183177 *加入者名 特定非営利活動法人てつく
振込控えを添付して、氏名・住所・連絡先(Tel&Fax)・希望コースを記入し、FAXして下さい。

NPO法人ふくてつく 研修部宛 FAX 06-6614-6800

定例会のお知らせ

6月
日時 6月7日(土) 午後1時30分~5時
場所 大阪市立社会福祉センター 3階会議室
学習会 「健康セミナー」
講師 西村 久代氏
代表 (有)ゆとりすと訪問リハビリ研究センター
日時 7月5日(土) 午後1時30分~5時
場所 大阪市立社会福祉センター 3階会議室
学習会 「政治と福祉」
講師 藤川 和夫氏
特養護老人ホームともしび苑 施設長

此花倉庫

借りました

この度、木工部の工具保管用の倉庫を、吉本会員所有の貸家をお借りすることになりました。(「此花倉庫」と命名しました。)場所は此花区で西九条からバス「区役所前」下車すぐです。



思い起こせば、木工倉庫は今までいろんなところをさまよいました。今はATCの倉庫を使用していますが、時間に制限があり、不便なことがあります。使用頻度の高いものを此花倉庫に移し、ATCも引き続き使います。此花倉庫は吉本さんからの要請があれば、いつでも退去するという条件ではありますが、ひともずは落ち着き場所が見つかり、ほっとしています。

木工部で5月3日に掃除と工具整理を行いました。ほこりを払い、掃除機をかけ、照明を付けると立派な倉庫となりました。吉本さん、どうもありがとうございました。今後ともよろしくお願います。掃除参加有馬・松本・池端・長岩・中北満・光川・和泉
(記 和泉 秀子)

日常茶飯事だったので。私は小、中学校とも養護学校にいましたが、それは居住する地域にはなく、近所の子供と遊ぶ事、すなわちまわりと触れあう機会を失う事でもありません。

小学校3年の頃までは字を書くことができませんでしたが、学習内容は普校と変わらレベルでしたから、どうして追いつくかという所から、使える所を活かそうと口で絵や字を書くようになったのは必然のことでした。

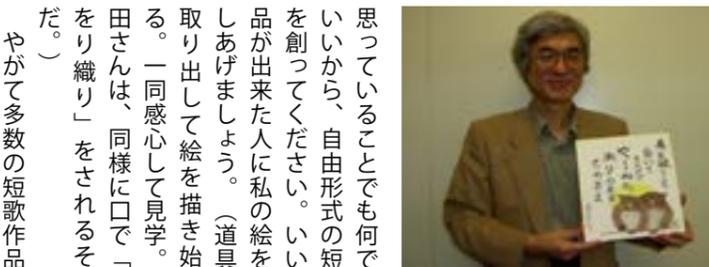
卒業しても就職は困難でしたし、今のように障害者のための作業所もありません。



ただが正しいのではないという事をわかって欲しいものです。さて、お話を聞いてみると、いよいよから、ひとつ絵を描くのを実演してみよう。その間に皆さんに今日の感想でも、今

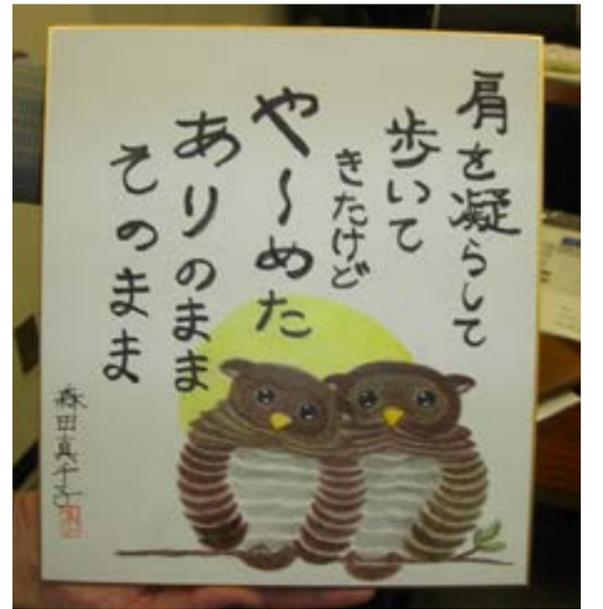
ん。そこで、とにかくなんでもやろうと頑張っていました。すぐに上達する事はできませんでしたが、とにかく描き続けて、現在、日本では正会員が6人しかいない世界身体障害芸術家協会の会員になることもでき、作品づくりや講演活動に忙しくしています。

日本はもちろん、世界各地を回りましたが、やはり日本がいいですね。それも東京なんかより大阪がいい。障害者だって外へ出る事によって、もまれる事が大事です。障害者はつらいままになりやすい。自分



1等賞で褒美に頂いた絵

思っていることでも何でもいいから、自由形式の短歌を創ってください。いい作品が出来たら私の絵をさしあげましょう。(道具を取り出して絵を描き始める。一同感心して見学。森田さんは、同様に口で「さりを織り」をされるそう



ら選ばれたのは、中北清作『筆を忘れて久しくなつた』としてなのかわからないけれども何かに開かれた 描く喜び思いだし：』(ほぼ七五調にまとめ、各段落末尾の子音をa・iでくりました。作者) ボランティアでもどんな自分を出して下さい。いろんな表現方法でもっとも自分を出して。自分を表すことによって、自分に気がつくものです。今日はとてもいい出会いができました。これからもよろしくお願いします。ありがとう!! (記 中北 清)

車いすの見た バリアフリーの歩み



4月定例学習会 平成15年4月5日(土) 吉本 昭 氏

「アミティ舞洲」にて * * * * * こんには。ようこそ私のホームグラウンドの此花区へおいで下さいました。当区は安治川と淀川に囲まれ、中心部は更に正連寺川と六軒家川が囲む、海抜ゼロ米地帯で、市電廃止後地下鉄もできない僻地です。私の生家は私が二歳の時、戦災で焼失するまで六軒家川沿いの船便の着く竹材問屋でした。昭和9年生れの私はその4代目で、幼時に脊椎カリエスにかかり、戦中戦後の無理な生活でケアーもできず、5歳で両下肢麻痺となりました。今、米軍に家を焼かれるイ

ラク戦争に、大阪空襲が強く思い出されます。『たけやがやけた』下から読んでも「たけやがやけた」です。その上度重なる風水害、阪神大震災でも淀川堤防の破壊等、市内で最大の被害があった此花区民として、街の発展への特別な思いがあります。

そんな此花区に、6年前に建設されたのが障害者スポーツセンター「アミティ舞洲」です。パラリンピックを始め国際競技ができ、重度障害者も付き添い無しで泊まれるホテルが併設されています。障害者スポーツは先の大戦後、英国のグットマン博士の提唱で始まりました。障害者といっても、肢体不自由、視覚、聴覚、内部、知的、精神障害等々と多岐に亘り、課題も様々ですが、スポーツでは共の場を持つことが可能なのです。『アミティ舞洲』の建設は夢のようなことで、私たちも要求のみでなく、協力も感謝もせねばと、障害者スポーツの代

■こどもカーニバル

4月7日(日)、大阪城公園太陽の広場にて「大阪市こどもカーニバル」が行われました。ふくてっくはボランティア情報センターさんからの参加で、朝早くから集まったメンバーは8名。晴天の下、なぜか他での木工教室より華々しい気分になります。ステージではかわいい子どもたちが歌ったり踊ったりと、元気いっぱいです。

付けの後、ボランティア情報センターさんから、「お疲れさん会」としてビールをもらいました。しんどかったけど楽しかった一日をしめくり、ふわふわといい気持ちで家路につきました。

参加 有馬さん・平松さん・野山さん・池端さん・原田さん・長岩さん・光川さん・和泉 (記 和泉 秀子)



会場内はこども相手とあって、無料の「遊びコーナー」が多くありました。もちろんふくてっくも無料。「作りたいんですけど、どうしたらいいんですか?」と礼儀正しい子どもたちが聞いてきます。「何かを考えて自由にやってみよう」と親切丁寧(?)に指導。見本は立派、木片も豊富、おまけに無料と3拍子そろい、次々と子どもたちが参加し、あつと言う間に足の踏み場もないくらいです。

テント2張りの下はカナツチ、ノコギリ、電動工具の音でそりゃもう賑やかです。経験豊富なスタッフが要望に応じて木を切ったり、穴を開けたり。私の出る幕はありません(やっぱり)。

午後3時で終了となり片



★報告★
有償ボランティア
コーディネーター
研修会
清水 麗子

有償ボランティア連絡会の研修会が、2月24日から3月25日まで5回開催されました。参加団体は9団体(清水参加) + ボランティア情報センター1名 + オプザーバー3名(杉浦氏)。会場は大阪市立社会福祉センター会議室。大阪市大の岩間伸行先生をスピーカーに迎え、事例研究をし「利用者の視点にたった支援とは何か」を学ぶ研修会でした。

1 回目は、岩間先生より対人援助における事例研究の意義、事例研究の構成要素等についての講義、2・3・4回は事例研究会、5回目は事例研究会を踏まえて、コーディネーターに求められる視点について参加者の意見交換が行われました。

岩間先生からのアドバイス『本人のニーズを受け止める援助を組み立てていく視点が大事である。ケースを知らずしてコーディネーターの役割はたせない。』

それでは、どのようにしてその視点を身に付けることができるか。まず、対人援助に必要なことは、徹底して当事者の側に立ち、当事者自身の生活や人生(ライフステージ)に入り込むことで、当事者本人の真のニーズが見えてくる。その為には事例研究(ケーススタディ)をし、そこから専門的援助のあり方を導き出す。

事例研究とは、事例研究会(ケースカンファレンス)によって、当事者本人の理解を深め、そこを起点として対人援助(援助者として利用者の協同作業)の視座から今後の援助方針を導き出す。援助関係は、援助者が当事者の歩調に合わせながら関係づくりをすすめることで、少しずつ強く、強くなっていく。

そしてケースカンファレンスでは、事例の共有化の段階において提供された情報をもとに、当事者本人の立場から当事者の理解を進めることであり、当事者か

らのメッセージをしっかりと受け止めながら、当事者のライフステージに入る作業が重要になる。当事者に関する客観的情報をいくらかく集めたとしても、それが直接本人の理解につながるものではない。ケースカンファレンスという場は、対人援助の視座から事例の理解を深め、援助の指針を導き出す創造的な「装置」である。答えが決まっているものではない。その援助の特質と同じくプロセスそのものが重視され、その展開過程が極めて大切となる。

今回の研修を終えて、ふくてっくのように物理的援助(住宅改修)を求められた場合、他の継続的支援(家族・団体やサービス事業等)を行っている人々とのコミュニケーション(当事者の情報の共有)や、ふくてっくでの事例の共有(事例研究?事例発表?)そして当事者のプライバシーについて宿題が残った。



車いすバスケット像 (アミティ舞洲パンフレットより)



TC・A TCをはじめ、商業施設は軒並み大赤字です。当施設も設備品を含まれると百億規模のお金が費やされています。オリッ

クもだめになり、舞洲のスポーツアイランド構想も挫折しました。なんとか、活性化策はないものでしょうか。各施設のバリアフリー設備も、施設が空洞化すると使えません。皮肉な事に、バリアフリーが問題用語となった平成7年頃から経済情勢は悪化するばかりで、ハートビル法や福祉のまちづくり条例改正でのバリアフリー充実が予算的に充分対応できるかが懸念されます。

転手さんやホテルの従業員さんが、せめて車いすのたみ方、開き方だけでも心得てくれたら随分助かると思います、公共広告機構に車いすの接し方のCMを要望。2年後に漸く車いすの青年にOLさんがエレベーターのボタンを押す指先一本でできる「ちょボラ」とのCMが出たのを、「ちょボラ」は障害者の癒しに過ぎないと、障害者側の厳しい意見が出て、CMそのものが消えました。皆さんは如何思われますか。

暗いことばかりですが、福祉サービスもバリアフリーも、戦後の長い道程を経て、漸くここまで来たのです。現状を肯定し、たとえ小さなことでも誰もができる改善を進めるべきです。車いす常用の障害者で高齢者でもある私も夫婦は、福祉サービスとバリアフリーの恩恵を利用する当事者のみでなく、その担い手とボランティアであることも願っています。(講師自筆)

代表的な車いすバスケット像を建立寄贈したのです。昭和36年の東京オリンピックと同時にパラリンピックが開催され見学しましたが、障害者設備は殆ど無く、スロープや車いすトイレ、車いすの貸し出し等、今日では常識となったバリアフリーの出現は同年の大阪万博からでした。以来更に四半世紀を経て、平成7年ハートビル法が施行され、バリアフリー(障壁除去)と言う問題用語が盛んに使われ出したのです。平成10年には交バリアフリー法が施行されました。障害者の長い要望が高齢社会の到来で漸く実現されたのです。平成7年の阪

神大震災は障害者・高齢者の安全という問題を提起しました。ハートビル法に基づく建物はまだ僅かですが、福祉やバリアフリーはスロープでしか進まないものです。健常者の意識改革が遅れがちなのです。私は震災で父の郷里の奈良県に疎開し、2年間過ごしました。還暦後毎年同県で行われる同窓会場を、車いすトイレのある会場で頼んでも理解されず、2度もトイレに行けないまま生駒の家へ帰りました。3年前に、車いすトイレを初め、バリアフリーのお手本を見せようと『アミティ舞洲』を会場にして訴えた

大規模な湾岸開発も、W TC・A TCをはじめ、商業施設は軒並み大赤字です。当施設も設備品を含まれると百億規模のお金が費やされています。オリッ

元年から、私も夫婦でも何とか付き添い無しで、国内外のクルーズに参加してきました。観光だけでなく、南太平洋ニューギニアで戦死した叔父の慰霊という悲願がありました。平成6年、漸くニューギニアに行けることになった時、現地でバスの乗降ができないうのではと案じましたが、案ずるより生むがやすしで、現地ではまだバスが走っています。障害の重複は、バリアフリー設備があっても旅は体力・気力で難行苦行です。旅を重ねて気づくのは、誰にでもできるちよとしたバリアフリーが沢山あることと、例えばタクシーの運

前に予約している事もあり、来場された親子のなかには、作りたい物の設計図を書いてこられたり、綺麗なドールハウスの真が載った本を持参されたりしていました。日曜という事もあり、お父さん方も多数参加されていました。そんなご家族にはふつつくメンバーも疍と娘さんんの權威回復(・・したかどうかは定かではありませんが)の邪魔はしないように心がけました。今回もちよとしたケガをしたお父さんがた事が

に必要な体の移乗スペースが、マニュアル浴槽と一体化して設置されているところか、欠落しているケースが多いです。車いすから直接浴槽に入りはできません。予約時に問い合わせでも、その認識がないので答えられないのです。終わりに、バリアフリーを「機能的」な側だけで見過ぎてはいけません。日本には「繊細優美」「侘び寂び」の文化があり、障害者も例えば茶室のじり口を入り、お茶を楽しむべきで、芸術や文化を尊重しつつ障害者の行動の可能性を考えるべきでしょう。心のバリアフリーとも言えます。



■おおさかパルコープ

3月8日(土)午前11時より蒲生の「おおさかパルコープ」で親子木工教室を行いました。パルコープさんの木工教室は初めてですが、子ども達は15名で、城東区や都島区、それ以外の区からも参加されました。2時間という限られた時間の中、ノコギリを触ったこともない子どももい



集まることで今後もうまく運営できていくものだと思います。パルコープさんの美味しいパンも食べさせていただき、蒲生の木材屋さんに寄り、色々木材を見て帰りまして。その後、翌日に浪

合間を縫って一所懸命活動されておられ、頭が下がります。木工教室はこのようになんかたがために、お仕事の



ました。が、みんな一所懸命「鉛筆立て付き機能車」を作り、喜んで帰っていき

速区で木工教室があるので有馬さんとATCに行き、準備をしてやっという日が終わりました。参加者 有馬さん・葛西さん・光川 (記 環代)

■浪速区

3月9日(日)浪速区コミュニティ協会の主催で「ネジアニマル」「鉛筆立て付き機能車」を作りました。子どもの参加は100名ほどで、ふくてっくスタッフは有馬さん・八木道夫さん・高木さん・松本さん・池端さん・中北満さん・原田さん・長岩さん・光川の9名でした。長岩さんは初めての参加でしたが、木を扱うのはプロで、子どもへの指導も見事でした。私は安全係りで、ケガの無いように絶えず気を配りました。今回の木工教室も下準備が多く大変でしたが、要領を得てきたことで、無事にこなすことができました。準備には時間が必要ですが、みなさん、仕事や活動に追われてお忙しいとは思いますが、



ですが、お手伝いをお願いします。みなさんの知恵をお貸しください。みんなでいい汗を流しましょう。(記 光川 環代)

■エフ・エー

3月30日まだ少し肌寒い春の日曜日、大長ハウスにてNPO法人エフ・エーさん主催の「親子木工教室」を行いました。まずエフ・エーさんが教室の説明とふくてっくの紹介をしていただき、次に大長ハウスの方が用紙して下さった木材の話をして、ふくてっくが道具の使い方・注意点を説明して始まりまし

た。この教室の参加者は事



残念ですが、楽しく心地よい疲れを楽しめた1日でした。参加 杉浦・有馬・平松・八木八郎・山藤・光川・中北満 (記 中北満)

住宅改修事例報告

A 依頼内容
B 日常生活と家庭状況
C 解決方法
D 改善後の状況と考察

一番の希望 承認されず

残念な浴室改修工事

平野区 N 邸 82歳 女性
介護保険 要介護1
初期診断
小川忠雄 立溝和行
コーディネーター
鎌田伊津子
業者委託 大和建設
A H14年8月大腿骨骨折、後遺症により歩行障害があり、歩行不安定。
・生活の中心の場であるリビングの路に手すり取付け希望。
・トイレ便座から立ち上がる時に持つ手すり取付け希望。
・浴室の床が滑るので、滑らないようにしてほしい。
・浴槽に移動する時と立ち上がる時に手すりがほしい。
・浴槽が深いのでかさ上げしてほしい。
B 市営住宅の7階にご本人と息子さんの2人暮らし。息子さんが朝仕事に出る。

等承認申請をしたのですが、ユニットバスの壁には手すりは取付け不可との事で承認されませんでした。一番手すりがほしいところに付けられないなんてとNさんは残念そうにおっしゃいましたが、結局浴室は住宅改修ではなく、福祉用具購入で対応することになりました。手続きはケアマネージャーが担当してくれました。
D リビングと便所の手すり取付け工事に関しては本人の希望に对应できたと思えますが、一番に希望されていた浴室の改修工事が承認されなかったのは、非常に残念です。「高齢者対応だ」というので入居したのに・・・と息子さん。
浴室は入浴を楽しみにしている人が多い反、危険をとまなう場所でもありません。あらかじめ手すりを取付けておくよりも、壁の下地補強をしておいて、必要な置に手すりが設置できるように対応してほしいと思います。
(記 鎌田 伊津子)

施設長の佐藤氏 (右から2人目)



三月十六日近鉄阿部野橋駅に十一時に集合し、近鉄電車に乗り込みはるる飛鳥までいってきました。現地に到着すると、外は生憎の雨でしたが、近くの公園で昼食(宴会?)を楽しくとり、目的地へと向かいました。
小雨の中をしばらく歩くと線路と竹林に囲まれるように薄茶色の丸い外壁が印象的な建物が見えてきました。
有効敷地積千三百坪に、鉄筋コンクリート造2階建、

見学会報告 やすらぎの丘 たかとり ワークス

小舎がとり囲む中庭



八棟、延べ床積八五五坪の中庭のあるモダンな建物の知的障害者入所施設「やすらぎの丘」と知的障害者所授産施設「たかとりワークス」です。
入所更正施設「やすらぎの丘」は、十名のショートステイと十名ほどの小舎制×四棟で成り立っています。家庭的な雰囲気の中で細やかなケアを行い、各棟に食堂、デイルーム、浴室等を設け、社会人としての自覚と生活能力を身に付け、自立への支援を行うとの事があります。
また併設する所授産施設「たかとりワークス」は、

作業指導室等
を設けたプレ
グループホー
ム二棟が整備
され、日々家
庭からい、
一人ひとりに
あった社会生
活を送る力を
身につけ、地
域社会生活で
自活した生活
を営めるよう
に支援する施
設です。
まずは、施
設長の佐藤氏
(ふくてつく
会員) から、併設されてい
る地域交流センターでお話
を伺いました。コンセプト
は地域とのつながり。佐藤
氏は、普通の地域の風景に障
害者にとけこみ、「あんな
らぎて良かった。この施
設ができてよかった」と、
言われるような施設にしたいと話されました。特に印象的だったのは、地域に密着するというのは地域の人がこの施設に来るだけではなく、積極的にこの施設の利用者地域に出向き、弁当を売ったり掃除をしたりと地域の一員として働くという点でした。
施設内部も見学させても

講座開催報告

日曜大工で 出来る バリアフリー 講座

春の訪れにはもうしばらく辛抱の2月初め、元気なお年寄り(だいたい65〜70歳) 16名を生徒さんに迎え「ふくてつく」一番お得意のバリアフリー講座&木工教室を開催いたしました。
今回は2月1・8・15日と3回の講座で、1回目は簡単に出来る「手すりのつけ方講座」、2回目・3回目で段差解消のための「手づくり踏み台」の製作に挑

はじめの30分もお見えになり、楽しくにぎやかに取り組んでおられました。
先生には後藤会員、助手は池端達の超元気さにも、材料の買出しや道具の搬入、搬出等の疲れも吹っ飛びま



立を支援していく施設のように感じました。今後このような施設が各地に広がってほしいなと思います。
最後に障害者も健常者も家族や親だけのかかわりではなく、それ以外の人のかわりでの社会的に自立すると聞きました。
夏はビヤガーデンをするそうです。今から夏が楽しみです。
(記 松岡 照代)

今回の講座は河内長野・千代田公民館さんが「ふくてつく」のホームページをご覧になり、「住宅の段差解消」をテーマに日曜大工でも出来る「身近なバリアフリー化」について学習会のご希望をされ、実施させていただきました。
後になりましたが、千代田公民館の館長様、職員の皆様から何かとご配慮ご協力をいただき、誠にありがとうございました。
(記 池端一義)

トイレ内
③木製縦手すりL: 600
下地補強共

廊下
①木製手すりL: 750
下地補強共
②木製縦手すりL: 600
下地補強共